

2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月12日

上場会社名 株式会社ゼンショーホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 7550 URL <https://www.zensho.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 小川 洋平
 問合せ先責任者 (役職名) 最高財務責任者執行役員 (氏名) 丹羽 清彦 (TEL) 03 (6833) 1600
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績(2025年4月1日~2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	936,691	10.6	60,914	4.9	59,123	7.0	35,505	4.1
2025年3月期第3四半期	846,760	19.8	58,094	55.2	55,246	55.9	34,102	56.3

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 50,373百万円(11.7%) 2025年3月期第3四半期 45,097百万円(97.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	215.67	—
2025年3月期第3四半期	209.89	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期第3四半期	943,620	325,413	34.4	1,569.04
2025年3月期	813,109	240,371	29.5	1,335.69

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 324,910百万円 2025年3月期 240,061百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	35.00	—	35.00	70.00
2026年3月期	—	35.00	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	—	—	35.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日~2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,223,500	7.6	82,000	9.1	77,400	7.7	42,500	8.2	260.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期3Q	160,733,225株	2025年3月期	160,733,225株
2026年3月期3Q	4,270,366株	2025年3月期	4,069,343株
2026年3月期3Q	156,626,977株	2025年3月期3Q	156,664,528株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

(注) 「株式給付信託(BBT)」の信託財産として株式会社日本カस्टディ銀行(信託E口)が所有する当社普通株式を、期末自己株式数及び期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。上記予想に関する事項は添付資料の4ページをご覧ください。

○種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

A種優先株式

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	2,707,397.26	—	2,692,602.74	5,400,000.00
2026年3月期	—	2,707,397.26	—		
2026年3月期(予想)				2,692,602.74	5,400,000.00

(注) A種優先株式は、2023年9月29日に発行したものです。

第1回社債型種類株式

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	—	—		
2026年3月期(予想)				99.72	99.72

種類株式の取得に関する方針

当社は、第1回社債型種類株式の取得条項により、2030年10月1日以降等に、金銭を対価として同株式を取得（コール）することができます。また、A種優先株式についても、当社は取得条項により、2028年9月29日以降に、金銭を対価として同株式を取得（コール）することができます。

当社が第1回社債型種類株式及びA種優先株式を取得（コール）するかは、その時点の事業・財務戦略や市場環境等を総合的に勘案して判断します。ただし、当社としては、ハイブリッド調達市場慣行として、社債型種類株主及びA種優先株主を含む多くの投資家が、当社による取得（コール）が可能となってから実務上可能な限り速やかに、対象となる種類株式の取得（コール）が行われることを期待していると認識しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結損益計算書関係)	9
(セグメント情報等)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

第1四半期連結会計期間より、従来の「グローバルファストフード」セグメントに含まれていた海外テイクアウト寿司事業を「グローバル中食」セグメントとして分離して開示することになりました。それにより報告セグメントは「グローバルすき家」「グローバルはま寿司」「グローバル中食」「グローバルファストフード」「レストラン」「小売」「本社・サポート」の7区分に変更しております。そのため、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の報告セグメント区分に基づいております。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2025年4月1日から2025年12月31日)の連結業績は、売上高9,366億91百万円(前年同同期比10.6%増)、営業利益609億14百万円(同4.9%増)、経常利益591億23百万円(同7.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益355億5百万円(同4.1%増)となりました。

当社グループを取り巻く経営環境は、世界情勢の緊迫化や米国通商政策の動向、為替相場及び金融市場の急激な変動など、先行き不透明な状況が続きました。国内においては、コメ価格の高騰に加え、輸入牛肉や水産物をはじめとする食材価格の上昇が、原材料費を中心に事業運営へ影響を及ぼしました。また、賃金には上昇傾向が見られるものの、物価上昇が継続していることから消費マインドは依然として停滞した状況が続いております。

このような状況の中、各報告セグメントの既存店売上高前年比は、「グローバルすき家」で103.8%、「グローバルはま寿司」で116.5%、「グローバルファストフード」で110.3%、「レストラン」で110.8%、「小売」で103.5%となりました。

当第3四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、818店舗出店、1,319店舗退店した結果、14,918店舗(FC8,164店舗含む)となりました。

報告セグメント別の概況につきましては、以下の通りであります。なお、文中に記載している売上高は、外部顧客への売上高としております。

(グローバルすき家)

「グローバルすき家」の当第3四半期連結累計期間の売上高は、2,330億40百万円(前年同同期比4.9%増)、営業利益は、73億29百万円(同63.7%減)となりました。

「すき家」は、日本国内と中国、東南アジア及び中南米に展開しており、ご家族やグループのお客様にもご利用いただけるよう、主力の牛丼を中心に安全で美味しい商品を手軽な価格で提供しております。また、前期末に国内すき家の一部店舗で発生した異物混入事案を受けた安全衛生対策については、清掃の強化や老朽化が進んでいる店舗の計画改装等に引き続き取り組んでおります。

国内すき家の商品施策としては、原材料費やエネルギーコストなどの上昇により物価高が続いている経済環境の中、すき家の牛丼を多くのお客様により手頃な価格でお楽しみいただきたいという想いから牛丼の値下げを実施したほか、「ナポリタン牛丼」、「煮込みハンバーグカレー」、「めかぶオクラ牛丼」、「ニンニクの芽牛丼」、「バターチキンソースカレー」、「月見すきやき牛丼」、「エビ中華丼」、「ローストビーフ丼」などを販売しました。

なお、当報告セグメントの当第3四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、90店舗出店、63店舗退店した結果、2,648店舗(国内1,996店舗、海外652店舗)となりました。

(グローバルはま寿司)

「グローバルはま寿司」の当第3四半期連結累計期間の売上高は、2,313億45百万円(前年同同期比28.4%増)、営業利益は、178億40百万円(同23.8%増)となりました。

「はま寿司」は、日本と中国などに展開しており、新鮮な海産物を使用した寿司に加え、麺類やデザート、ドリンクなどのサイドメニューも充実させており、お子様から大人まで楽しんでいただいております。

なお、当報告セグメントの当第3四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、89店舗出店、4店舗退店した結果、820店舗(国内658店舗、海外162店舗)となりました。

(グローバル中食)

「グローバル中食」の当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,648億15百万円(前年同期比4.3%増)、営業利益は、220億21百万円(同13.9%増)となりました。

主要ブランドである「AFC(ZENSHI)」、「SNOWFOX」、「YO!」、「Bento」、「Sushi Circle」は、主として欧米で寿司等のテイクアウト商品を提供しております。

当報告セグメントにおいては、収益性や立地条件等を踏まえた店舗ポートフォリオの最適化を目的として、戦略的な出退店を進めております。

なお、当報告セグメントの当第3四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、611店舗出店、1,174店舗退店した結果、8,952店舗(FC8,025店舗含む)となりました。

(グローバルファストフード)

「グローバルファストフード」の当第3四半期連結累計期間の売上高は、850億87百万円(前年同期比9.0%増)、営業利益は、31億41百万円(同9.4%増)となりました。

「なか卯」は、和食ファストフードチェーンとして、親子丼・京風うどんを中心に、バラエティ豊かな商品をお手頃価格で提供しております。そのほかに、ハンバーガーチェーンの「ゼッターリア」・「ロッテリア」、とんかつ専門店の「かつ庵」、武蔵野うどんの「久兵衛屋」、ハラル認証を取得したチキンライス専門店の「The Chicken Rice Shop」などが当報告セグメントに含まれております。

当報告セグメントにおいては、各業態の特性や成長性を踏まえ、業態構成の見直しや店舗運営の効率化を進めており、その一環として、ハンバーガーチェーンの「ロッテリア」から「ゼッターリア」への転換出店や、セルフサービスの讃岐うどん専門店「瀬戸うどん」の全店閉店を実施しております。

なお、当報告セグメントの当第3四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、22店舗出店、68店舗退店した結果、1,171店舗(国内906店舗、海外265店舗、FC63店舗含む)となりました。

(レストラン)

「レストラン」の当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,280億19百万円(前年同期比10.7%増)、営業利益は、96億80百万円(同23.9%増)となりました。

ファミリーレストランの「ココス」は、季節感を重視したフェアメニューの積極的な導入による商品の強化、専門店にも負けない本格的な味の追求、お客様が満足してお食事をしていただけるようサービス水準を高め、業績の向上に努めております。そのほかに、パスタ専門店の「ジョリーパスタ」、ハンバーグ&ステーキレストランの「ビッグボーイ」、厳選された牛肉を提供する焼肉チェーン店の「熟成焼肉いちばん」、本格イタリアンレストランの「オリーブの丘」、和食レストランの「華屋与兵衛」などが当報告セグメントに含まれております。

なお、当報告セグメントの当第3四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、6店舗出店、5店舗退店した結果、1,187店舗(国内1,186店舗、海外1店舗、FC76店舗含む)となりました。

(小売)

「小売」の当第3四半期連結累計期間の売上高は、583億91百万円(前年同期比1.2%増)、営業損失は、9億65百万円(前年同期は営業損失11億53百万円)となりました。

北関東中心に展開しているスーパーマーケット「マルヤ」、「ジョイフーズ」などのほか、青果販売等を行っている「ユナイテッドベジーズ」などが当報告セグメントに含まれております。

なお、当報告セグメントの当第3四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、5店舗退店した結果、121店舗となりました。

(本社・サポート)

「本社・サポート」の当第3四半期連結累計期間の売上高は、77億58百万円(前年同期比91.3%増)、営業利益は、18億92百万円(前年同期は営業損失36億13百万円)となりました。

食品の製造・加工を担う㈱G F F、物流機能を担う㈱グローバルフレッシュサプライ、備品・ユニフォーム等を調達する㈱グローバルテーブルサプライなどが当報告セグメントに含まれております。

(その他)

「その他」の当第3四半期連結累計期間の売上高は、282億31百万円(前年同期比8.3%減)、営業損失は、2億60百万円(前年同期は営業損失16億55百万円)となりました。

家庭用冷凍食品等を企画・開発・販売する(株)トロナジャパン、醤油やドレッシングなどの製造・販売を担う(株)サンピン、介護事業を運営する(株)輝、玄米・精米を販売する(株)ゼンショーライスなどが含まれております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産は9,436億20百万円となり、前連結会計年度末から1,305億11百万円増加いたしました。これは主に、第1回社債型種類株式発行に伴う預金の増加及び有形固定資産の増加等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は6,182億6百万円となり、前連結会計年度末から454億69百万円増加いたしました。これは主に、有利子負債の増加等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は3,254億13百万円となり、前連結会計年度末から850億41百万円増加いたしました。これは主に、第1回社債型種類株式発行に伴う資本剰余金の増加及び利益剰余金の増加等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年5月13日発表の2026年3月期業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	79,695	131,499
売掛金	53,323	56,577
有価証券	12,040	16,084
商品及び製品	4,848	5,097
仕掛品	3,244	3,514
原材料及び貯蔵品	63,960	82,047
その他	35,303	34,811
貸倒引当金	△409	△432
流動資産合計	252,006	329,200
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	279,784	309,929
減価償却累計額	△155,051	△162,526
建物及び構築物（純額）	124,732	147,403
機械装置及び運搬具	31,299	33,904
減価償却累計額	△16,066	△16,942
機械装置及び運搬具（純額）	15,232	16,962
その他	256,529	293,781
減価償却累計額	△122,134	△138,912
その他（純額）	134,395	154,868
有形固定資産合計	274,360	319,234
無形固定資産		
商標権	198,423	209,121
のれん	11,234	10,408
その他	6,083	6,994
無形固定資産合計	215,741	226,523
投資その他の資産		
投資有価証券	1,528	1,410
差入保証金	39,618	41,023
その他	29,336	25,636
貸倒引当金	△62	△77
投資その他の資産合計	70,420	67,992
固定資産合計	560,522	613,750
繰延資産	580	669
資産合計	813,109	943,620

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	56,386	58,261
短期借入金	6,857	8,890
1年内償還予定の社債	—	5,000
1年内返済予定の長期借入金	29,925	15,225
未払法人税等	15,447	5,632
契約負債	883	911
引当金	5,006	2,738
その他	76,606	98,558
流動負債合計	191,114	195,219
固定負債		
社債	35,000	50,000
長期借入金	227,923	242,493
引当金	525	160
退職給付に係る負債	284	370
資産除去債務	6,874	7,649
その他	111,014	122,313
固定負債合計	381,623	422,987
負債合計	572,737	618,206
純資産の部		
株主資本		
資本金	47,497	47,497
資本剰余金	74,112	122,613
利益剰余金	113,097	136,763
自己株式	△13,723	△15,626
株主資本合計	220,983	291,246
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	46	82
繰延ヘッジ損益	△723	96
為替換算調整勘定	19,755	33,483
その他の包括利益累計額合計	19,078	33,663
非支配株主持分	309	503
純資産合計	240,371	325,413
負債純資産合計	813,109	943,620

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	846,760	936,691
売上原価	382,585	428,969
売上総利益	464,174	507,721
販売費及び一般管理費	406,079	446,806
営業利益	58,094	60,914
営業外収益		
受取利息	1,572	2,088
受取配当金	6	12
為替差益	—	1,261
持分法による投資利益	20	15
その他	1,483	1,840
営業外収益合計	3,083	5,217
営業外費用		
支払利息	4,166	5,187
為替差損	104	—
その他	1,661	1,820
営業外費用合計	5,932	7,008
経常利益	55,246	59,123
特別利益		
固定資産売却益	82	63
受取補償金	608	—
補助金収入	52	112
その他	180	27
特別利益合計	923	202
特別損失		
固定資産売却損	233	7
固定資産除却損	1,815	1,712
事業撤退損	—	※1 2,664
その他	1,763	1,953
特別損失合計	3,812	6,338
税金等調整前四半期純利益	52,357	52,987
法人税、住民税及び事業税	17,095	15,461
法人税等調整額	1,146	2,034
法人税等合計	18,241	17,495
四半期純利益	34,115	35,491
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	12	△13
親会社株主に帰属する四半期純利益	34,102	35,505

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	34,115	35,491
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21	36
繰延ヘッジ損益	△233	820
為替換算調整勘定	11,176	14,004
持分法適用会社に対する持分相当額	18	19
その他の包括利益合計	10,982	14,881
四半期包括利益	45,097	50,373
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	45,082	50,370
非支配株主に係る四半期包括利益	15	2

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2025年8月18日開催の取締役会決議に基づき、第1回社債型種類株式10,000千株を2025年10月1日に発行し、同日付で完了した払込に伴う資本金及び資本準備金増加分の全部につき、その他資本剰余金へ振り替えております。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が48,500百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が122,613百万円となっております。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 事業撤退損

当第3四半期連結累計期間において、連結子会社Pocino Foods Company（外販製造卸売事業）について、市場環境の変化及び、ゼンショーグループの経営資源の集中と選択により同社の解散・清算を意思決定いたしました。それにより発生する損失見込額及び発生した損失額を、事業撤退損として特別損失に計上しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							
	グローバル すき家	グローバル はま寿司	グローバル 中食	グローバル ファスト フード	レストラン	小売	本社・ サポート	計
売上高								
外部顧客への 売上高	222,175	180,191	158,069	78,069	115,679	57,725	4,055	815,965
セグメント間 の内部売上高 又は振替高 (注)4	225	0	—	10	99	581	303,810	304,727
計	222,400	180,191	158,069	78,080	115,779	58,306	307,865	1,120,692
セグメント利益 又は損失(△)	20,205	14,407	19,340	2,871	7,810	△1,153	△3,613	59,868

(単位：百万円)

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への 売上高	30,794	846,760	—	846,760
セグメント間 の内部売上高 又は振替高 (注)4	11,243	315,970	△315,970	—
計	42,037	1,162,730	△315,970	846,760
セグメント利益 又は損失(△)	△1,655	58,212	△117	58,094

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外販製造卸売事業、介護事業及び畜産水産事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△117百万円は、主にセグメント間取引消去及び棚卸資産の調整額であります。
3. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							計
	グローバル すき家	グローバル はま寿司	グローバル 中食	グローバル ファスト フード	レストラン	小売	本社・ サポート	
売上高								
外部顧客への 売上高	233,040	231,345	164,815	85,087	128,019	58,391	7,758	908,459
セグメント間 の内部売上高 又は振替高 (注)4	272	161	—	8	219	618	356,827	358,108
計	233,313	231,506	164,815	85,095	128,238	59,009	364,586	1,266,567
セグメント利益 又は損失(△)	7,329	17,840	22,021	3,141	9,680	△965	1,892	60,939

(単位：百万円)

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への 売上高	28,231	936,691	—	936,691
セグメント間 の内部売上高 又は振替高 (注)4	13,141	371,249	△371,249	—
計	41,372	1,307,940	△371,249	936,691
セグメント利益 又は損失(△)	△260	60,679	235	60,914

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外販製造卸売事業、介護事業及び畜産水産事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額235百万円は、主にセグメント間取引消去及び棚卸資産の調整額であります。

3. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

事業における重要性を踏まえ、業績管理区分をより経営実態に適した形に見直したことに伴い、第1四半期連結会計期間より、従来の「グローバルファストフード」セグメントに含まれていた海外テイクアウト寿司事業を「グローバル中食」セグメントとして分離して開示することにしました。それにより報告セグメントは「グローバルすき家」「グローバルはま寿司」「グローバル中食」「グローバルファストフード」「レストラン」「小売」「本社・サポート」の7区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	33,050百万円	38,308百万円
のれんの償却額	1,106	895